

2016年4月10日、台中の友達、信ちゃんに会うため台湾北部の瑞芳駅から列車で30分ほど乗り、昼過ぎに台北駅に着いた。台北駅は何回か来ているが、通路がわかりにくい駅だ。台北の地下鉄「捷運」<sup>MRT</sup>の出入り口が地上、地下に触手を伸ばして複雑だ。切符売り場と、改札の関係がよくわからない。在来線の改札も並んでいるので、まごついてしまう。荷物を抱えて行ったり来たりした末、やっと高鐵（台湾新幹線の略称）の窓口を見つけて、台中までの自由席切符を買った。

高鐵の地下待合所は、無料で趣が無い。空間に余裕が無かったので仕方ないが、これから旅に出るぞという感じがしないし、狭くて暗く、並列ベンチは病院の待合所みたいだ。日本の新幹線駅のように、ホームで待つことはできず、この待合所で、「開門」まで待つ。

予定した列車に乗り込み、1時間ほど揺られると台中に着いてしまった。車中の景色は高速鉄道の常で速すぎて面白くない。

高鐵台中駅は、在来線の「台中駅」とはかなり離れているが、新規に建設しただけあって広々としている。広すぎて友人の信ちゃんと待ち合わせ場所に困る。改札は三か所あり「改札前で会いましょう」というわけにはいかない。

一旦、改札外に出て、一通り見渡したが彼の姿は見えなかった。動き回るのはかえって混乱すると思って、空港にあるような長椅子式の待合ベンチに座り、信ちゃんの方で見つけてくれるのを待った。

何分かたって、ようやく信ちゃんが奥さんと手分けして私を捜し当ててくれた。やれやれ。お久しぶりの挨拶の後、信ちゃんの中古ベンツで、予約したホテルに納まり、一息つく。

### ■<sup>タイナンタンツーメン</sup>台南担仔麵（台中店）

夜になり、夕食をご馳走になる。信ちゃんの見立てで行ったところは、「台南担仔麵（台中店）」。

もともと「担仔麵」は屋台の店で売っている、小腹



それぞれの国旗を並べて。正面は台湾国旗の信ちゃん

が空いたときに食べる汁そば。この店も前身はそのような小店舗だったが、奮起して高級海鮮料理店に発展した。「台南」と頭に付くのは東京のラーメン店に「喜多方」と付いていたりするのと同じか？

調度品は綺麗、店の雰囲気もよい。肝心の料理の内容は、たいへんよかった印象があるが、細かい内容は忘れてしまった。すみません。

印象深く覚えているのは、私が日本人と分かるのと、係が日の丸の小旗をテーブルに持ってきた。信ちゃんには台湾国旗「青天白日旗」が用意された。まるで国際会議場ごっこのようでおかしかった。それならば、客が大陸の中国人のときには中国国旗、「五星紅旗」が用意されて「青天白日旗」と並び立つかどうかは興味のあるところだ。

### ■<sup>新</sup>新台湾原味餐廳-人文懷舊館（高雄）

台中で一泊の後は、台湾南部、高雄のすぐ沖にある「小琉球」という小島に行った。ネットで調べると「小琉球」の由来は、台湾では沖縄本島近辺の島々の総称を「琉球」と呼んだので、「小琉球」とは、それと区別するため「小」の字を入れたと書いてあった。

信ちゃん運転のベンツに、信ちゃんの奥さんのレイちゃんが助手席に座り、私が後席に乗って高速道路を南下した。

小琉球は高雄の港「東港」から、高速船で30分ほどである。フェリーボートは無いので、ベンツを駐車場に預けて高速船に乗った。そしてこの島の民宿



旅館、民宿が並ぶ小琉球の港

で1泊した。

「小琉球」島民は以前は産業も無く、中学を卒業すると台湾本土に渡る人が多かった。今は観光で生活できるようになり、本土に働きに出なくてもよくなった。



蟹注意の交通標識 (小琉球)

私が泊まった民宿は信ちゃんがネットを見て予約を入れていた。風光明媚で評判の宿というふれ込み。千客万来で潤っているようだが、客へのサービスは今ひとつと思った。例として、食事は作らず、近所のバーベキュー屋に丸投げだったし、朝食は近くのコンビニから、取り寄せた「海鮮ハンバーガー」をあてがわれた。「海鮮」というのが特色というべきか。しかし、すばらしいとはいえないものだった。

「小琉球」の見どころはいろいろあるようだが、事前調査が足りず、時間切れとなってしまった。夕暮れに、ウミガメが民宿前の岩場に泳ぎ寄ってくるのが珍しかった。高速船の出帆時刻に制限されるので、一泊して高雄に戻った。

高雄での4月12日の昼食は、信ちゃんがネットで捜した「新台湾原味餐厅-人文怀旧館」という食事処だ。ここも日本のガイドブックに紹介記事がある。現地の表記は「懷舊館」で、当用漢字で書けば「怀旧館」となり、昔を偲ぶということだ。実際、室内の壁や天井が日本統治時代の化粧品や飲物の看板、ポスターで埋めつくされている。

よくも、捨てられずに集めたものだ。瑛瑛製の宣

伝用ネームプレート板は幼い頃の、「萬やさん」の店先を思い出す。その他、知らない台湾映画のポスター、古い映写機など、見飽きない。映画関係の品が多いのが特徴かな。

食事内容だが、豚脂身を醤油で煮た汁を白いご飯にかけて食べる、「猪油拌飯」というのがこの地方の名物。庶民が貧しかった頃の、おかず無しで食べる素朴な食べ物らしい。台湾風味噌汁かけご飯のようなものか。各種定食は白飯ではなく、その「猪油拌飯メシ」になっていた。

私は「豚足」を頼んだので、味付けは「猪油拌飯」と同じようなものだろうか。塩気が私にはやや強いが、皮が透明になってなかなか旨い。

### ■無為草堂—人文茶館

4月13日、昼食が済むと、高速道路を走って台中に戻る。

不思議なことに台湾の高速道路には、料金所が無い。信ちゃんにどうして？ と尋ねると、車に読



日本統治時代の看板が並ぶ「新台湾原味餐厅」の店内



私が食べた「豚足定食」。おいしいよー。



水・土曜は、池に張り出した棧敷で揚琴を演奏。



無為草堂の入口。

み出しのチップを搭載、高速出入口に読み取りの端末があって車を把握。ほかにナンバープレートを読み取るカメラも併用して、走行料金を割り出すという。料金の精算は、銀行口座から自動的に落とす仕組み。過払いの例は無く、むしろ感知逃れで安くなった場合があるという。また、高速利用の通勤者に金銭的負担にならない配慮をして、最初の20kmまで無料になっている。こうすることで、通勤時間帯の一般道混雑を回避する仕組みにもなっている。高速道路システムは日本より進んでいると思った。

台中に戻る。私はホテル、信ちゃんと奥さんは自宅へとそれぞれ納まった。

夕食は私の希望で、以前連れて行ってもらい、好きになった「無為草堂」。名前のいわれは、老子の言葉から取ったと、ホームページ日本語版に書いてあった。食事もできる茶館で建物はやや古い木造二階建て（一部三階建て）。回廊を巡らした建物中央に池があり、どの客席からも池が見える。母屋から池にせり出した棧敷のような東屋があり、ここで水・土曜の夜は揚琴の生演奏がある。全体の外観は一昔前の日本料亭風で自然と懐かしい気持ちになる。部屋の調度品も何やらいわれがありそうな、掛け軸や置物などが一部の部屋に纏まっておかれ、ちょっとした美術館なみだ。

この店は、大きな交差点の角にあるので、開発業者が目をつけて、高額で土地買収を提示したが、オーナーは断ったという。信ちゃんはオーナーと旧知なので内情に詳しい。

茶館なので大がかりな食事はできないが、こまご

まと楽しい料理が適量で食べ残すことも無い。欠点は酒類が置いていないことで、飲まない人側からは長所になるのかな？

しかし、心配無用。持ち込み自由なので、この日は冷えた缶ビールを持参した。私は酒は好きだが、弱いので少量で満足。信ちゃんはアルコールは駄目。奥さんは夜に仕事があるそうで、この日は来られなかったが、彼女も酒は飲まない。

この夜注文したのは、「香煎鯖魚套餐」。鯖定食といったところか。大根おろしがほしいところだったが、美味しくいただいた。日本的な食事なので、せっかくなら台湾的なものを頼んだ方が良かったかなと、後で思った。

食事が終わってから、館内を見学。その日は水曜日だったので、揚琴の音色が流れてきた。聞いたことのある曲だと記憶を探ると、演歌の「津軽海峡冬景色」だった。演歌は好みでは無いが、揚琴で流れるとまた違った趣だ。

館内見学の流れで、若い女性揚琴奏者のそばを通ったとき、信ちゃんが中華圏では誰もが知っているテレサ・テンテレサ・テンの持ち歌「月亮代表我的心」月が私の心を表わしているをリクエストした。

暗い池に映る灯りと窓。撥ね踊るような揚琴の旋律。……曲が終わったとき、私と信ちゃんが思わず拍手をすると、演奏者のショウジエ小姐もニッコリと笑みを返して、互いに満足。楽しい宵だった。 (終わり)

★以上3つの店、「台南担仔麵(台中店)」、「新台湾原味餐厅」、「無為草堂」は日本のガイドブックやインターネットにも紹介がある。